

下立売通千本西入ル

長榮山勝巖院
クラウドファンディング企画

みんなの
お寺のための
みんなの
庭づくり



クラウドファンディング
サポーター大募集!



2025 (金) 2026 (水)
10.17 ~ 1.14

主催 : 長榮山勝巖院
職人パートナー : いのはな夢創園
企画プロデュース : 佐伯圭介 (星ノ鳥通信舎)
制作ディレクション : 小野友資 (Y小)
域内コネクション : コミュニティ・バンク京信
広報協力 : Japanese Garden TV

お坊さんと京の庭師がひらく、日本庭園のやさしいかたち

お問い合わせ 長榮山勝巖院
TEL 075-821-5680 Mail info@shogan-in.com



お坊さんと京の庭師による
クラウドファンディング企画

勝巖院（第23代住職:立田 歓学）では、地域にひらかれたお寺づくりを目指し、2025年春からお寺の建てなおしの準備を進めてきました。このたび、その第一弾として本堂広場と方丈庭園を一体的につくりなおし、地域のみなさまが集い、安らげる空間を整えていきます。

庭をまっさらなものにつくり変えるのではなく、荒れてしまった庭を一度解体しながら、現在のかたちがつくられてきた背景を読み、その上に400年にわたるお寺と地域の歴史を編みなおすことで、いま・これからを生きる人々のよりどころ



現在の庭のすがた/方丈庭園

クラウドファンディングの情報

募集期間：2025（金）2026（水）
10.17～1.14

受付場所：THE KYOTO クラウドファンディング（京都新聞社）

クラウドファンディング説明会イベント

日時：2025.10.26（日）16:00～17:30
会場：勝巖院 方丈の間 / オンライン配信あり（Zoom）
定員：40 名程度（先着順）
参加費：無料
お申し込み：お電話または QR コードより事前のお申し込みをお願いいたします。
当日参加も若干受け付けいたしますので、お気軽にご参加ください。

庭の現在地とこれから

現在の庭がいつ、だれによってつくられたのかを知るための記録は手元に残っていません。庭師と行った調査によれば、地形の作りかたや石の据えかたなどから当時の庭師が

作庭したものではなく、今でいうワークショップ的な寄り合いの中でつくられ、なにかの事情で複数回にわたり組み換えられてきた背景が浮かび上がってきました。今回、クラウドファン



勝巖院 / SHOGAN-IN
肥前国佐賀藩の鍋島家にゆかりのある浄土宗のお寺で、慶長2年（1597）鏡誉上人の開山。大名の娘（直姫）を失ったさびしさを機に、姫の冥福を祈った同家から寄進された御殿の一部や自愛品などによって現在のお寺の姿がつけられる。境内1,300坪。ご本尊は阿弥陀三尊。



お寺が建つ場所は、平安宮の大内裏の向かいにあった「宴松原」と呼ばれる松林にあたり、承和元年（834）には弘法大師・空海によって密教の加持祈禱を行う「真言院」が設けられた。

〒602-8352
京都市上京区下立売通千本西入ル稲葉町472
TEL 075-821-5680



住職
立田 歓学 / Kangaku Tatsuta
長榮山勝巖院第23代住職、高等学校教員。大学卒業後より住職を引き継ぎ、同時に教育の道に進む。現在までお寺と学校を兼務。「教育は対話を通じた合作として成る」ことを信条に、一人ひとりの立場や環境に寄り添う法話のかたちを大切にす

みんなのお寺のための
みんなの庭づくり



①



②



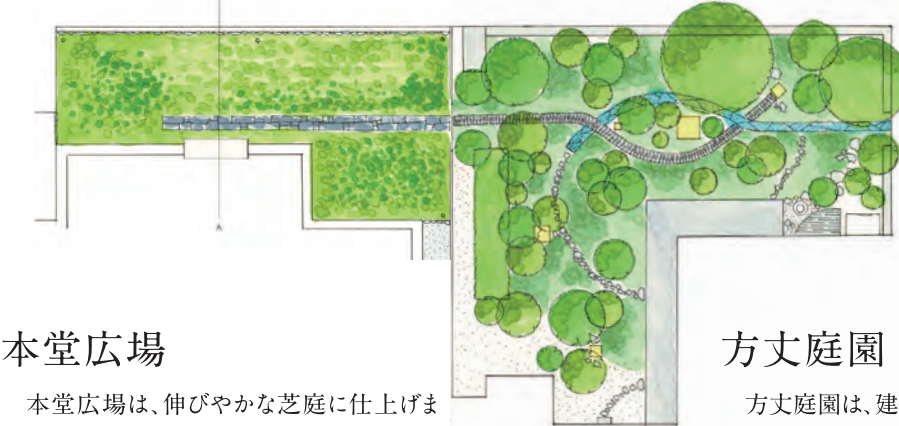
③



④

- ①京の街を見つめる阿弥陀三尊/本堂
- ②方丈廊下に差しこむ朝日
- ③崩れ落ちた石造物/方丈庭園
- ④散華とお守り/返礼品のひとつ

庭とともに生まれる景色



庭園完成予定：2026年4月上旬

本堂広場

本堂広場は、伸びやかな芝庭に仕上げます。京都の街を左見右見するように南を向かれるご本尊（阿弥陀三尊）と向き合う広場を「南座」として、ひとり静かな参拝や散歩から、みんなで賑わう催しまで、オープンスペースとして開放的な空間にしています。

方丈庭園

方丈庭園は、建物 の二辺をL字型に縁取りながら東西・南北に約20mの幅をもち、その西門から東門へと庭を横切ると、本堂前の広場につながります。これまでの寺庭によく見られた「極楽浄土」を再現するのではなく、



INOHANA MUSOUEN

職人パートナー：
猪鼻 一帆 / Kazuho Inohana
1980 年京都市生まれ。一級造園技能士。京都では異なり、自由な線と生きもので構成される庭の空間に魅了され、庭の世界へ。熊本で修行を積んだ後、師である父の下で庭づくりを開始。後年にいのはな夢創園を継承。

国内では kudan house（東京）や竹中大工道具館（兵庫）、無量山永興寺（京都）をはじめ、邸宅・店舗・オフィス・ミュージアムなどの作庭を幅広く手がけるほか、近代住宅建築の名作「聴竹居」（京都）の管理も担当。国外ではモンゴルの某国大使館をはじめ、アメリカやドイツ、ベトナムなどで作庭を行う。

サポーター大募集！～みんなの庭づくりの参加方法～



①庭を（みんなで）つくる

2026年3月に行う庭づくりに参加し、京都の庭に受け継がれてきた職人技を間近で体感しながら、石組みや苔張り、庭木の植樹などに協力いただきます。見学のみも可。

②庭を（みんなで）つかう

2026年4月～6月にかけて、庭園をさまざま角度から楽しむことができるイベントや寺子屋、養生会、お浄め行などのプログラムにご招待させていただきます。

③庭を（みんなで）まもる

次の春（～ 2027 年 3 月）まで約 1 年間、庭師の手ほどきを受けながら一緒に庭を育てていく特別会員「庭守り」を募集させていただきます。

企画プロデュース：
佐伯 圭介 / 星ノ鳥通信舎

京都を拠点に活動する文化企画編集室。再建プロジェクトに向けたリサーチからこれからのお寺の構想デザイン、庭園のディレクションなどを担当。「みんなの歌」を創作。

制作ディレクション：
小野 友資 / Y小

京都を拠点にデジタルとアナログ領域を横断した活動を多岐に展開。お寺の WEB メディアから新聞まで全体のクリエイティブ・ディレクションを担う。

域内コネクション：
コミュニティ・バンク京信

地域のつなぎ手。住職・庭師・プロデューサーらをつなぎ、今回のプロジェクトが生まれる最初のきっかけを生み出したおせっかいバンカー。

広報協力: Japanese Garden TV

…………… みんなの歌 ……………

せんちやく みちゆき くさき さ いろか

「みなそこへ選択しむる道行に 草木はさがを去りて色香う」

意味:それぞれ生きるために選択する道は違えど、最終的な行先である浄土の境地に立てば、底はおなじ。その道行にたゆたう草木は性（別・格・質）の区別とは無縁なところで「ただいま」を色や香で伝える。

意図:みんなの居場所をまとめるためのリズムと景色を庭の中からはぐくむ。

背景:お寺のはじまりのきっかけとなった直姫に関連し、勝巖院には女人往生（女性救済）の象徴的な存在として、奈良時代の〈中将姫〉の生きざまを描いた絵巻が大切に引き継がれています。今回、中将姫が残した和歌「なかなか山奥こそ住みよけれ 草木は人のさがを言わねば」を本歌取りした歌を創作。

当院収蔵の中将姫縁起絵図より